【 70 】

氏名	神　崎　剛　志
学位の種類	医　学　博　士
学位授与番号	博　甲　第　965　号
学位授与の日付	平成 3年 3月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学(一)専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	Immunohistochemical Studies on the Class and the Subclass of the Anticolon Antibody and the Distribution of the Antigen Recognized by the Anticolon Antibody in Patients with Ulcerative Colitis (潰瘍性大腸炎患者における抗大腸抗体のクラスおよびサブクラスとその対応抗原の分布に関する免疫組織化学的検討)
論文審査委員	教授　太田善介　　教授　木村郁郎　　教授　赤木忠厚

学位論文内容の要旨

潰瘍性大腸炎患者血清中にみられる抗大腸抗体の病因論における意義を検討する目的で，免疫組織学的にラット大腸上皮細胞と反応する抗大腸抗体のクラスおよびサブクラスを明らかにした。あわせて免疫電子顕微鏡法により抗大腸抗体により認識される抗原の分布についても検討した。

その結果，潰瘍性大腸炎患者10例中2例の血清中に抗大腸抗体を認め，そのクラスおよびサブクラスの検討ではIgG 2が主体であった。また，抗大腸抗体により認識される抗原は大腸上皮細胞のapical membraneと粘液細胞の粘液物質にその局在が認められ，上皮細胞のbasolateral surfaceには局在を認めなかった。

以上より，本法により検出される抗大腸抗体は大腸上皮細胞の細胞膜や杯細胞の粘液成分を構成する糖鎖抗原を認識している可能性が示唆された。また，本法により検出される抗体による補体の活性化を介した機序やantibody-dependent cellular cytotoxicityなどの，潰瘍性大腸炎における粘膜傷害への関与は考えにくいと思われた。

なお，本論文は共著論文であり，共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査の結果の要旨

本研究では潰瘍性大腸炎患者血清中にみられる抗大腸抗体の病因論における意義を酵素

抗体間接法により検討した結果，本法により検出される抗体による補体の活性化を介した機序やantibody－dependent cellular cytotoxicityなどの，潰瘍性大腸炎における粘膜傷害への関与は考えにくいという結論を得た。これは臨床的に有意義な新知見を得たものである。

よって，本研究者は，医学博士の学位を得る資格があると認める。